

Systematic Reviewに使用されるデータベースの動向： Cochrane Database of Systematic Reviewsの分析から

河合富士美^{*1} 及川はるみ^{*1} 奥出麻里^{*2} 首藤佳子^{*3} 小田中徹也^{*4}

^{*1} 聖路加国際病院医学図書館 ^{*2} JFE 健康保険組合川鉄千葉病院図書室

^{*3} 星ヶ丘厚生年金病院図書室 ^{*4} 国立病院機構京都医療センター図書館

背景と目的：EBM の推進に伴い、わが国でも厚生労働省が主導し積極的に診療ガイドラインの作成が進められている。そうした中、図書館員が検索を担当したガイドラインも徐々にその数を増やしている。ガイドライン作成のような包括的な検索を求められる場合、どのデータベース（以下、DB）を使用するかについては明確な指針もなく、検索担当者にとっては重要な問題であると考えられる。本稿では同じく包括的な検索をもとに作られている Cochrane Database of Systematic Reviews（以下、CDSR）に利用されている DB の数や種類を分析し、Systematic Review や診療ガイドライン作成のための検索をする際の DB 選択の動向を探ることを目的とする。

方法：OVID の EBM Reviews - Cochrane Database of Systematic Reviews<1st Quarter 2004> を用いた。Browse Topics で Cochrane Stroke Group の 111 件をサンプルとして選択した。各 Review の Search Strategy の中に挙げられている DB と資料のうち、Electronic Search の分を全て抜き出した。また、全ての Review に使われている Cochrane Stroke Group の Search Strategy (<http://www.dcn.ed.ac.uk/csrg/resources.asp>) に挙げられている 27DB（実数 29DB）と併せ、カウントを行った。

結果：Cochrane Stroke Group の Search Strategy の 29DB 以外に 58DB が Additional Search した DB として挙げられており、使われた DB の合計は 87DB であった。1 Review の平均使用 DB は 30DB で、最大は 41DB であった。

考察：代表的な Systematic Review である CDSR においては、30 もの DB を検索して作成されている。目的は若干異なるが、わが国の診療ガイドライン作成においては非常に限られた DB しか使用されていないのが現状である。今後更なる DB の利用動向の調査、DB 利用環境の整備とともに、マイナーな DB へもアクセスできる知識・利用方法の研究が望まれる。